

音を語り、
境界を繋ぐ――

2028年度新設

東京音楽大学

ミュージック・イノベーション課程

MUSIC
INNOVATION

東京音楽大学

ミュージック・イノベーション課程〔2028年度新設〕

東京音楽大学は、幅広いメディアや業界を横断し、世界で活躍できる次世代の音楽クリエイターを育成する新課程を2028年度に開設します。AIの発展によって音楽制作の環境が大きく変化し、ジャンルや業界の境界が再編され、コンテンツの届け方そのものが変わりつつある現在、クリエイターには従来とは異なる視点と実践力が求められています。本課程では、作曲・編曲の専門技術を基盤としながら、海外機関との協働プロジェクトや業界団体との連携を通じて、音楽と視覚芸術の融合を探究する特別プログラムを展開します。変化する時代の中で新たな価値を創造し、国内外で活躍できる人材の育成を目指します。



創造性と発信力を併せ持ち、 世界で活躍できる音楽クリエイターを育成



Curriculum 1

【音を語る】 アート・シンキング

他分野の専門家と協働するための感性の言語化と、社会の課題や違和感に対して独自の「問い」を立てる訓練を行います。アルス・エレクトロニカ®の手法等を取り入れ、直感的な発想を論理的に表現し、多様な未来を共創する思考力を養います。

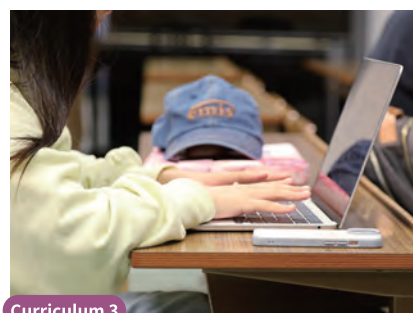
※アルス・エレクトロニカはリンツ（オーストリア）にある、アート・テクノロジー・社会を結びつける国際的な文化機関です。



Curriculum 2

【境界を繋ぐ】 クリエイティヴ・サウンド・ラボ

クラシック音楽、ゲーム音楽、メディアアートなど、多様なジャンルの表現や制作手法を横断的に学びます。それぞれの領域に固有の価値観や発想法を理解することで、既存のジャンルにとらわれない柔軟な創造力を養います。



Curriculum 3

【発信する】 アーティスト・ブランディング

作品は発表する場や届ける相手によって異なる意味を持ちます。本講座では、作品を社会の中で価値として成立させる視点から、音楽体験や文脈をデザインする力を養います。創作と発信、企画と実装を往復し、自ら活動領域を切り拓く実践力を育みます。

国際的な創作活動を見据えた実践的なプログラム

国際的な発信や協働制作に必要な英語力を身につけ、グローバルに活躍する音楽クリエイターを目指します。CEIPA（一般社団法人カルチャーアンドエンタテインメント産業振興会）やArs Electronica、IRCAM（フランス国立音響音楽研究所）、École Normale de Musique de Parisをはじめとする国内外の連携機関との協働によって、国際的な視点から創作・研究を深めるプログラムを展開します。また、Ars Electronica Festival等のフェスティバルや展示会での作品発表を視野に入れた実践的な制作活動に取り組めます。



©Ars Electronica / Robert Bauernhansl

履修について

作曲指揮専攻 作曲「芸術音楽コース」、作曲指揮専攻 作曲「ミュージック・メディアコース」、ミュージックビジネス・テクノロジー専攻を中心に、学部2年次より履修可能とする予定です（2027年度入学生より）。

卒業後の活躍イメージ

ジャンルや業界の枠組みにとらわれず、独自の表現と専門性を武器に活躍するクリエイターを目指します。

〔進路例：作曲家、サウンドクリエイター、メディアアーティスト、ゲーム音楽クリエイター、音楽プロデューサー、クリエイティブ・ディレクター、音楽企画プランナー、アプリ・ゲームの音響エンジニア、展示会・テーマパークの空間プロデューサー など〕



東京音楽大学

●中目黒・代官山キャンパス（学校法人本部） 〒153-8622 東京都目黒区上目黒1-9-1
●池袋キャンパス 〒171-8540 東京都豊島区南池袋3-4-5



▲特設サイト